

資料館だより 第5号

発行・編集 若狭国吉城歴史資料館
〒919-1132 福井県三方郡美浜町佐柿25-2
TEL 0770-32-0050
FAX 0770-32-0057

平成24年(2012)12月23日

山の上からすっごい石垣が！びっくり!!

国吉城址史跡第13次調査現地説明会開催

今回は本丸帯曲輪西斜面の説明会です。前日まで雨や雪の中で、寒さに震えながら準備していましたが、この日のこの時間だけ好天に恵まれました！町内外より36名の参加がありました(終了後雪に...)。



たくさんの皆さんが見学に見えています。

『美浜南小5年生親子レクリエーション』
* 当館ボランティアガイド5名と大野学芸員
とで山城のご案内。



『第4回歴史講座』
* 彦根城見学。22名の参加で、城と町並みを
五感でつかむ！



『敦賀市 万象俳句会』ご来館



『福井県観光連盟ツアー』ご来館



主な団体のお客様

- 2012年
- 7月 第2回歴史講座
美浜南小5年親子レクリエーション
 - 8月 第3回歴史講座
 - 9月 第4回歴史講座
敦賀市の万象俳句会
 - 10月 石川県津幡町議会
福井県カモシカ保護指導等委員会
第5回歴史講座「ふるさとをのろしてつなごう」
福井県観光連盟ツアー
 - 11月 毎日新聞旅行の城めぐりツアー
若狭地方町村議会職員研修
なびフェス(町民文化祭で無料開館)
県観光連盟ツアー
関西文化の日(無料開館日)
第6回歴史講座
 - 12月 平成24年度国吉城址史跡第13次調査現地説明会

『毎日新聞旅行の城めぐりツアー』の見学会



2013年1月31日現在
来館者数合計は...

13685名

平成24年度秋季企画展

イメージ

城の形

イメージ

～国吉城の姿を想像しよう～

10月27日(土)～11月25日(日)の開催が、好評につき12月28日(金)まで延長しました。



平成24年度トピックス展「国吉城と源平武将伝説」

期：越前・若狭と源平の武将たち

10月17日(水)～12月28日(金)開催しました。



期：国吉城籠城戦と燧ヶ城合戦

1月16日(水)～3月31日(日)開催中。



(学芸員の作業室)

前号からこっち、資料館も発掘現場もお仕事もプライベートも、激流を綱渡りする気分でした…(涙)。

ちょうど前号を発刊した頃、国吉城址史跡第13次調査は、夏休みの大学生を新たな戦力に加え、精力的に掘削に励んでおりました。その成果は、巻頭でお伝えしたように、それは見事な天正期(16世紀後半)のものと思われる二段石垣の発見という、これまでの国吉城史の一部を書き換えなければならない形で現れました。最終的に確認された石垣は、下段は全長30mを越え、上段は自然岩盤を匠に利用した構造でした。城郭に詳しい、中井均滋(賀県立大学准教授)には、12月の記者発表時にコメントをお寄せいただきましたが、現地をご覧になった折にも「城郭では今年一番の発見じゃないの?」という高い評価をいただき、この秋は有頂天になっておりました(笑)。

ところが、新聞掲載された翌日、京都の聚楽第跡で全長32mの石垣発見という大スcoop(聚楽第は、豊臣秀吉が徹底的に破壊したため、遺構は失われたと思われていた)が!…思いっきりこちらの発表が霞んでしまった悲しい年末でした(涙)。

この10月は、『トピックス展 期』と『秋季企画展』の準備と、『全国山城サミット魚津大会』への参加、毎年恒例の『ふるさとをのろしでつなごう』が同じ時期に重なるという過酷なスケジュールで、例年になく大変な1ヶ月でした。

山城サミットとのろしはダブルブッキングで、のろしは準備だけ進めて、当日は歴史講座の受講生さんたちにお任せしました。後日の報告で、定刻どおり無事にのろしを上げることができたと聞き、安心しました。僕自身は、国吉城を全国にアピールするために山城サミットに出席したのですが、以前、発掘調査に参加してくれた静岡県の大学生(今は社会人)が富山県まで会いに来てくれるという、うれしいサプライズがありました。

そして、トピックス展 期と秋季企画展を同時進行で準備し、血反吐を吐きながらも、多くの方のお手伝いもいただき、それぞれ無事に開催当日を迎えることができました…秋季企画展の方は、姫路城のペーパークラフトの完成が遅れて、完全に整ったのは開催3日目でしたが…(他は全部揃ってたんですよー!)。おかげさまで、過去最高の観客動員数(笑)。

教訓…スケジュールは、確実にこなせる範囲で、余裕をもって(笑)



《つぶやき》

今年は巳年です!…その干支の由来についてみてみましょう。巳(へび)は胎児の成長の始まりの時の、まだ頭と体ははっきりとした形を表していない時期の姿を現しているといわれています。このことから「包」の中と同じ意味を持つ漢字です。また巳(へび)は再生の象徴として生物の成長の中で最高潮に達している事を意味し次の生命が作られ始める時期ともいわれています。新たな何かが生まれる時期というところでしょうか。小さい時は怖いイメージがあったんですけど、こんなすばらしい意味を持った生物だったんですね。さて、平成25年(2013年)皆さんにとって何か新しい発見の年となりますように…。(恵)

